

## 平成17年8月の解説(府県天気予報)

### 【8月の天候状況】

上旬は、朝鮮半島から東北地方に停滞した梅雨前線が北上して、4日に東北地方で梅雨が明けた後、日本付近は太平洋高気圧に覆われ晴れる日が多くなりました。中旬は、前半、本州付近に前線や低気圧が停滞し、東日本を中心に広い範囲で雨の日が多くなりましたが、後半は太平洋高気圧に覆われて再び晴れる日が多くなりました。下旬は、前半に前線が日本海から本州中部にゆっくり南下したため、本州付近は曇や雨の日が多くなりました。月末には台風第11号が関東地方南部に上陸し東日本を中心に暴風雨となりました。

月を通しての日照時間は、北海道地方では平年の120%以上となった観測地点もありましたが、その他の地方では少なく東北、関東甲信地方では平年の80%以下となった観測地点もありました。降水量は北日本の日本海側と東日本では平年より多く120%以上の観測地点が多くなりましたが、北日本の太平洋側と西日本では平年より少なく、西日本では多くの観測地点で70%以下となりました。月平均気温は全国的に平年より高く、北日本では多くの観測地点で1以上高くなりました。

### 【8月の検証結果】

17時発表「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報では76%で例年(注)より2ポイント低く、明後日予報では73%で例年より1ポイント低くなりました。地域毎の適中率は、明日予報では東北、東海、近畿地方で6ポイントから11ポイント低くなりましたが、北海道地方では4ポイント高くなりました。明後日予報では東北、東海、北陸、近畿地方では6から9ポイント低くなりましたが、九州北部地方では6ポイント、北海道地方では8ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、例年と比べて東北地方で0.3、関東甲信地方で0.4小さくなりましたが、そのほかの地方は例年と同程度で、全国平均では例年より0.1小さい1.6でした。また、最低気温の予報誤差は、北陸地方と九州南部地方では0.3小さくなりましたが、そのほかの地方は例年と同程度で、全国平均では0.1小さい1.1でした。

(注)例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【8月の天気予報から】

8月30日の午後、本州南岸沿いに前線が停滞していました。8月30日17時発表の天気予報では、30日夜から翌日(31日)にかけて本州中部の上空では南西の風が吹き、台風の東側を回って暖かい湿った空気が流れ込んで前線の活動が活発になるため、東京地方では雨が降ると予想していました。

実際に、30日夜には関東地方の上空は南西の風で東日本から西日本の広い範囲で所々雨が降り、本州中部では

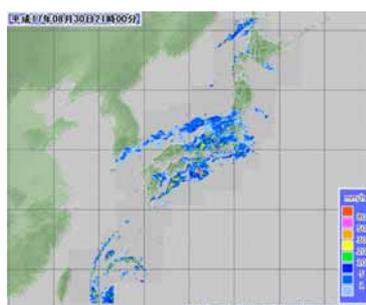


図1 2005年8月30日21時レーダー観測

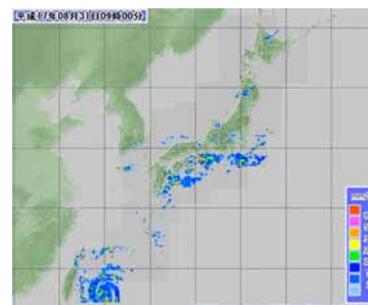


図2 2005年8月31日9時レーダー観測

強い雨が降ったところもありました。しかし、31日朝には前線は、本州の南岸に停滞していましたが、関東地方の上空では北西の風となり、雨は主に本州の南海上の範囲に限られ、前線は次第に弱まり午後には消滅しました。東京地方では31日10時頃まで小雨が降りましたが、降水量1mm以上にはならず、雨の予報をはずす結果となりました。

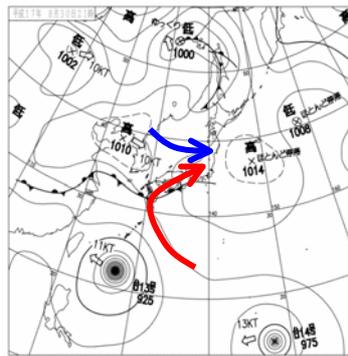


図3 2005年8月30日21時地上天気図

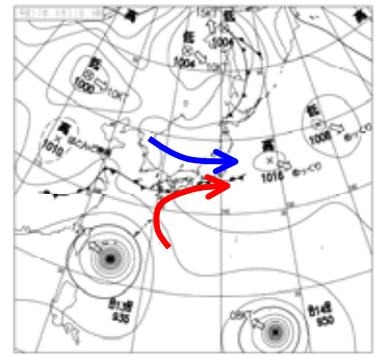


図4 2005年8月31日9時地上天気図

赤の矢印は台風を回る暖かい湿った上空の空気の流れ、青の矢印は北からの冷たい上空の空気の流れを模式的に示しています。

この日の天気予報では、前線付近で暖かい湿った空気が流れ込むことにより雨の降る範囲が前線からどのくらい北側に広がるかがポイントでしたが、前線上空に北西の風が吹き前線の活動が弱まることが予想できませんでした。上空の風のわずかな差で、雨の降り方が変わるという、難しい予報と言えます。

### 【10月の天気予報の利用にあたって】

秋になると低気圧・高気圧が交互に通過し、低気圧が通過するときには雨や曇の天気、高気圧に覆われると晴れの天気が数日の周期で交互に繰り返すようになるとともに、時には移動性高気圧が連なって、晴れの日が続くこともあります。このように、さわやかな秋晴れの日も多くなりますが、一方で低気圧が急激に発達しながら日本付近を通過し、大雨や強風など大荒れの天気となります。

1999年10月26日に東シナ海で発生した低気圧は、27日に急速に発達しながら四国沖から東海沖を通過して関東地方へ進み、28日に三陸沖に進みました(図1)。この低気圧の影響で、東日本や東北地方の太平洋側を中心に、27日から28日にかけて大雨となり、千葉県佐原市で1時間に153mmの記録的な雨を観測したほか(図2)、千葉県、茨城県の広い範囲で、1時間に100mm前後の猛烈な雨が降り、人的被害や住宅の損壊、浸水などの被害が発生しました。

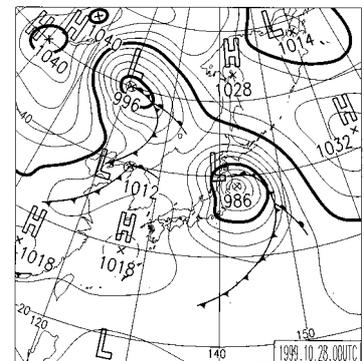


図1 地上天気図(1999年10月28日9時)

このように、10月は秋晴れと安心せず、大雨や強風についての気象情報が発表されたときは、最新の防災気象情報を活用して十分に注意されることをお勧めします。

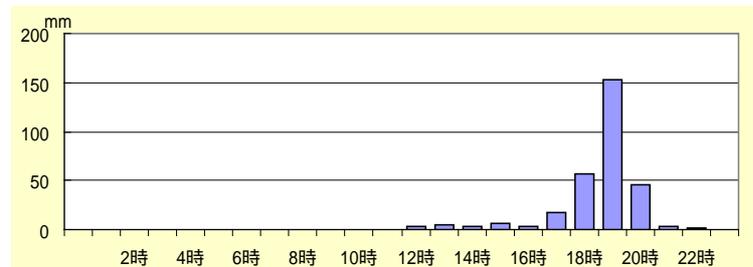


図2 1999年10月27日佐原(千葉県)の毎時降水量